

大学受験の兄弟の話

当東進衛星予備校藤枝駅南口校は、現役高校3年生の入学期限は9月15日である。それは合格実績のためだけのために、短期期間で責任をもって志望大学大学合格に導くことはできない、との方針故である。生徒数を水増ししてでも合格数実績を謳い生徒募集をする予備校界の風潮に異議を唱えるためでもある。

そんな折9月20日の東進模試の成績表返却面談で、地域で一番の進学高校の3年生のT君が当校に来校した。超難関双頭の一つ国立K大学文学部B判定である。弟が陸上競技で全国クラスの成績を修めているため、両親はオファーのある私立K大学の推薦入試受験を認めているのに、兄の彼は経済的に国公立大学進学しか認めない、と言われてしていると不満を漏らしていた。だから、どうしてもそのK大学文学部に合格したい、と相談された。

実は彼は2年の2学期から東進の模試を受けに来ていて、確実にその国立大学文学部に合格するには、同学部の出題傾向に合わせて彼の弱点単元克服の授業を受けた方がいいと考え、成績表の返却面談の度に当校入学を勧めていた。無料の新年度招待講習も勧め、東進の授業も体験してもらった。彼は私の生まれ故郷の子だったので、私の方で勝手に親しみを感じていた。その度に両親に相談したが、経済的なことを理由に難色を示した、と言う。

しかし、今回は違った。B判定までに持ち込んだ彼の努力を評価し、最後の一押しを当校に託された。彼の東進の模試成績・B判定を元に特別入学申請し、当校に入学できた。冒頭の東進入学期限の例外規定・旧帝大以上の大学志望で、東進の模試でB判定以上の条件に救われた。彼は毎日当校に通学し、閉校時間まで勉強に励んだ。その勉強ぶりに当校スタッフも感心しきり。しかし、共通テストで失敗し、残念ながらK大学入学試験は不合格だった。否、彼の学力は本物だった。募集定員僅か数名の北の旧帝大文学部の後期試験に見事に合格した。

その10か月後の12月初め、彼の弟が当校に来た。えっ！どうして？推薦で私立K大学に決まったんじゃないの？私はそう思った。聴くに、オファーのあった私立K大学の推薦入試を蹴り、国立大学体育学群の学校推薦型選抜を受験した。しかし、陸上競技で彼以上の成績を残した子が同試験に受験してきたため、無念にも不合格の連絡を学校から受けた、と言う。兄に相談したら、私に頼め！との一言で来たとのこと。とはいえ、私立大学入試でも僅か2か月後に控えたこの時期。しかも、前述の高校3年生の通期講座入学期限を遠に過ぎており、例外規定にも合わない。困った。しかし、兄から託されたらなんとかしなくてはならない。直近の彼の模試データを見て、彼の学力を詳細に分析。受講できる90分の授業10回以下の「講習講座」（一般の夏期・冬期各講習に相当）で、希望する体育学部系の国公立大学及び私立大学受験を想定した講座提案書をその日のうちに作り上げ、両親に相談しな、と渡した。数日後、各大学の陸上競技の練習環境を調べ、自分に最適な私立の体育系大学受験を決め、当校に入学し、受験勉強に入った。兄と血は争えない。驚くことに、学校を休んでまで朝から閉校時間まで当校で勉強した。彼は、もう学校を欠席しても卒業できるこ

とを調べていた。その根性に感服した。

結果、彼は勿論、その大学入学試験に合格し、今陸上競技に勤しんでいる。私は数年後、日本代表で世界大会で活躍する彼の姿を夢見ている。